

令和元年度第 2 回宗像市民図書館協議会議事録

	開催日時	令和元年 10 月 30 日（水）10：00～11：52			
	開催場所	宗像ユリックス 会議室 8			
出席者	【委員】				
	河内祥子会長	○	野本俊彦副会長		藤井準一委員
	牟田貴美子委員		高杉洋史委員	○	高屋和美委員
	白根一夫委員	欠	栗山佳子委員		
	【事務局】				
	図書課長織戸由美子		図書館係長本田博子		西谷尚子
	柴田やよい				

会議資料

- ・宗像市読書のまちづくり推進計画（案）資料 1

議事内容

1．開会のあいさつ

河内会長あいさつ

2．審議事項

(1)「宗像市読書のまちづくり推進計画（案）」について

事務局から資料説明

【追加・訂正等】：ページ等

表紙：資料右上に資料 1を追加

目次：17 行目用語解説のページを「23」に訂正

目次：18 行目宗像市民図書館協議会委員名簿のページを「25」に訂正

21 p：宗像市教育政策課が行う学校意識調査で調査することになったため、2 行目「なお」から 5 行目までを削除

21 p：指標名に「読書が好きな児童生徒の割合」を追加

25 p：本協議会委員名簿を別紙（当日配布）に差し替え

【質疑等】：取組み等 番号：委員の発言 ：事務局からの回答等

具体的な取組みについて

基本方針 1

4 p 前期の成果 3 行目「赤ちゃんのおはなし会」

「赤ちゃんのおはなし会」にしてしまうと妊婦は参加しづらい。妊婦への案内はどのようにしているのか。

市の妊婦対象のたまご学級で、保健師から妊婦も参加できる「赤ちゃんのおはなし会」のことを紹介してもらっている。口コミで「赤ちゃんのおはなし会」のことを知り、参加している人が多いようだ。

広報紙の参加対象者の中に妊婦も入れると参加しやすいのではないかと。

4p 後期の取組み 2 「読み聞かせに関する研修会など」

保育所・幼稚園・認定こども園では、わりと絵本の読み聞かせは定着している。絵本の読み聞かせに限定せず、わらべうたも研修会に入れてはどうか。

現場の先生方はわらべうたに対して苦手意識がある。

認定こども園でおはなし会を行っている。同じわらべうたを繰り返すと先生方も覚える。子どもたちの反応もよい。

どのような研修を希望するか意見を集約し、表現を変更したい。

4p 後期の取組み 5 「子育てサロンへの支援」

各小学校区に子育てサロンがあるが、毎年代表者が変わることもある。年に1回程度読書推進団体情報（所在地区、依頼方法等）を提供してほしい。

情報を提供したい。

6p 後期の取組み 5 「家読事業」

ブックネットワーク北九州の仲先生の講座（しおり、読書記録ノートの手作り）を受けた。「本を読もう」の言葉かけだけではなく、幼稚園生や小学生が形から読書に入る講座を企画してはどうか。手作りしおり、付箋、鉛筆などの読書セットがあると、楽しみながら読書ができるのではないかと。

手作りのしおりは学校でも人気がある。

以前学校のこども読書週間のイベントで、1冊読むたびに読書記録冊子に書名や簡単な感想を記入し、スタンプを集める催しを行った。子どもたちはスタンプを集めるのも好きなので、友達同士で本を紹介する等読書の輪が広がった。

楽しみながら読書に繋げるように工夫したい。

基本方針 2

10p 前期の成果 5 行目 「ビブリオバトル」

ビブリオバトルは国語学習等でも活用できると思う。

10p 後期の取組み 11 「連携事業の開催」

どこと、どのような連携なのか。漠然としているので具体的に書いてほしい。

コミュニティ・センターとの連携による読書活動の推進ということを書いているが、わかりやすく修正する。

たくさんの中高生がコミュニティ・センターやメイトム宗像等で夜間勉強をしている。読書を促す小さなチラシが置いてあると、勉強の合間に手に取り、啓発になるのではないかと。

中高生それぞれへの情報を提供したい。

電子図書館の案内も中高生には効果的だと思う。

電子図書館は中学生以上の宗像市民対象。一度、図書館で登録申請すれば開館時間を気にせず利用できるのではと宣伝したい。

自由ヶ丘地区コミュニティ・センターで読書推進団体の「理科読 風ぐるま」に理科読イベントをしてもらった。とてもよい活動だが、一部の人にしか知られていない。各コミュニティ・センターの育成部会長宛に、読書推進団体にイベントを依頼する場合の必要経費（講師謝金、材料費）等を提供すると連携に繋がるのではないかと。

10p 後期の取組み 13「読書月間の周知」

読書月間を使って家読の啓発をするとよい。学校での朝読、家に帰っての家読の関連付けもできる。

10p 後期の取組み 13「学校や地域との連携による事業実施」

何の事業の連携なのか。具体的に書いてほしい。

わかりやすく修正する。

12p 後期の取組み 14「ボランティア養成講座」

絵本の読み聞かせ講座はボランティアを養成するためだけでなく、時間にゆとりのある世代を対象に身近な人(孫や子ども等)に読み聞かせをするための講座も開催してはどうか。ボランティアになることを強要せず、身近で読み聞かせを楽しんでもらうことができれば、将来的にボランティア活動にも繋がるのではないか。

基本方針 3

15p 後期の取組み 21「学校司書の継続配置」

宗像市では今後も増減なく学校司書を配置すると理解してよいか。

現在、来年度予算を要求している。地島小を除き一校一人配置予定。市は財政が厳しく今後は不確定。一校一人配置を目指していきたいが、いかに授業で図書館を活用するかが重要。今後も学校にいろいろな声掛けをしていきたい。

これまで調べる学習コンクールや授業も学校図書館を使って、学校司書と連携して行ってきた。くれぐれも複数校掛け持ち配置にならないようお願いしたい。学校司書と連携した授業をどれくらい行っているかを発表していくのが効果的だと思う。

年度末に学校司書から提出される「学校図書館のまとめ」をみると、学校図書館活用時数は小学校では読書での利用が多く、学習での利用の5倍程度読書で利用されている。中学校では読書での利用より学習での利用が多い。

読書も教科の中で行っているので学習利用に入るのではないか。

図書館活用時数統計のカウントのとり方について再検討してほしい。

15p 後期の取組み 22「学校図書館の段階的な地域開放について検討」

昨年、山口県萩市の学校(コミュニティスクール)を視察した。一階の広い図書館は学校用入口と地域開放用入口があり、一般席(一般向資料もあり)と児童席が別れていて子どもたちの利用の妨げにもなっていなかった。参考になると思う。

現学校司書が地域開放スタッフを兼任するのは不可能。学校開放スタッフの予算確保ができてから実施してほしい。

小学校には図書的时间があり子どもたちの利用が多い。開放する場合は子どもたちとの使い分け、住み分けが必要だと思う。

児童生徒の安全を第一に配慮して検討していきたい。

学校図書館と公共図書館では法律が違うので、著作権の取扱いも違う。資料の複写でトラブルが発生する可能性もある。違いの整理も必要。

学校図書館を地域開放するメリットは何か。

学校は身近な拠点の一つと考えているが、ほとんどの学校図書館は狭く、児童生徒用資料しか揃えていない。大島学園では学校図書館の一角に市民図書館コーナーを設置して島民に開放している。学校の規模、実情、地域性等を考慮した上で、どのようなサービス

が展開できるか考えていきたい。

ハードもソフトも充実させるのであれば可能性はあると思う。学校図書館が狭いので広くする、スタッフをもう一人増やす、図書費を補充できる等のことがあれば、学校や子ども達にとってもメリットになるだろう。

城山中学校で改築計画があり、ワークショップで地域の人や生徒の意見を聞いている。図書館の利用に関する意見も検討材料の一つとして考えていきたい。

自由ヶ丘地区は広く校区が2つある。自由ヶ丘南小学校からはコミュニティ・センターが遠い。30周年に修復工事があると聞いている。その機会にコミュニティ・センター的機能も学校に置き、図書館の地域利用についても検討できればよいと思う。

校舎改修時期に学校図書館の地域開放に繋げるしかないだろう。

18p 後期の取組み 25「電子図書館サービスの充実」

電子図書館を導入すると紙媒体の資料を軽視するということが起こりうる。今の時代はどちらのメディアも不可欠。両方をバランスよく配分してほしい。

電子化で補えるところは電子化で行うのが今後の流れだと思うが、そこで生まれた時間や人手をどう新しいことに活用して発展させるのか。しっかりと考えを持っておく必要がある。

19p 「(3) 適切な図書館運営」

最近、読字障害の子どもが5パーセント程いると聞く。そのような子どもが手に取りやすい本のコーナーが図書館にあるとよい。そこで本好きが5パーセント増えるのではないか。そんな内容を書いた一文が計画の中にあるとよい。

各学校図書館には読む行の両側を隠して読みやすくできるゲージがあり、学校司書が使い方の支援をしている。電子書籍でも彼らが読みやすい形態を選択できる。

LLブック(8p記載)は、文字が読めなくても写真やイラストでわかりやすく構成した図書であり、徐々に集めている。将来はコーナー化できればよいと思っている。

20p 後期の取組み 29「窓口業務委託」

指定管理者制度への動きはあるのか。

数年前に協議があったが、今のところは出てきていない。今後の動きはわからない。福岡県内には指定管理者制度の図書館もある。本市では公共図書館と学校図書館の両方の管理運営を図書課が行っている。図書館行政は直営でないとうまく進められないことも多いので、今後も出来るだけ今の体制を継続していきたい。

指定管理者制度になると大変なことになる。導入している自治体では窓口職員の募集が最低賃金でハローワークで行われているところもある。これでは司書の専門性が子どもの教育に反映されない。宗像市では子育て支援に力を入れている。読むというのは学力の基本。その予算の削減は危険。本協議会でこのような意見が出ていることを予算確保時にも伝えてほしい。

目標指標について

指標の追加

図書購入予算確保のために「学校図書館蔵書の更新率」や「学校司書の配置率」を入れてはどうか。

指標「学校図書館活用時数」

何のために使うかではなく、教育活動としてどれくらい使っているかを聞くともっと増えるのではないか。

中学校の9時間は少ないのではないか。

統計の取り方については検討する。中学校は教師により図書館の利用の仕方が違うので、低くなっているのではないかと思う。

指標「調べる学習コンクール参加率」

中学校の参加率が増えた理由は何か。

宿題での取組み、子どもたちの意欲向上、優秀な作品の増加、学校司書の先生の指導の効果等だと思われる。

子どもまつりで表彰式と展示があるが、コミュニティでも展示があるとよい。

各学校の文化祭でも展示が行われているので、学校で見たい。

(2)「宗像市読書のまちづくり推進計画」見直しスケジュールについて

事務局から今後のスケジュールについて説明

11月：本協議会の意見を反映した修正案について河内会長の承認を得る

11月：庁議でパブリックコメント実施提案

12月：定例教育委員会でパブリックコメント用計画案提案

1月上旬～：パブリックコメント実施（市広報紙1月1日号で周知）

2月：パブリックコメント後の回答案・修正案を第3回図書館協議会で確認

5. その他

第3回協議会開催について

令和2年2月（12月日程調整）開催の予定

宗像市読書月間イベントについて

読書月間チラシでイベントを紹介

6. 終わりのことば

河内会長あいさつ